

第13回 議員定数等議会改革推進特別委員会記録

日時：令和2年8月5日(水)

9時28分～11時56分

場所：第4委員会室

【出席者】 牛尾委員長、西川副委員長、沖田委員、小川委員、笹田委員、佐々木委員
西田委員、西村委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 古森局長、下間書記

議 題

1 議員定数等について

- ・【各会派等の意見】議員定数を考える視点について

資料1

2 その他

○次回開催 8月21日(金)午後1時30分 第4委員会室

【議事の経過】

(開議 9時28分)

牛尾委員長

第13回議員定数等議会改革推進特別委員会を開会する。8名全員出席である。

前回、各会派の集約について更に持ち帰ってもらい、追記があれば事務局へ出してほしいということで、追記のあったところ、ないところがあった。これは確認していただいたと思う。

今日は、先般通知したが、この会派の考え方について自由討議という形で自分たち会派が掲げる定数について、これまでも掲げておられますが、会派なりの哲学を入れた根拠の上積みがあればさらに語ってもらいたい。

この委員会において自由討議は初めての試みになる。ざっくりばらんな意見交換会をお互いにしつつ、互いの主張について理解を深めながら、その上で集約できる糸口を探るための自由討議を取り組みたい。皆、よろしく願います。

議題1 議員定数等について

・【各会派等の意見】議員定数を考える視点について

牛尾委員長

挙手でご発言いただきたい。

西田委員

表の中には創風会として積み上げはしていないのだが、最初の時に報告させていただいたものをまとめてここに入れてくれと私が言えばよかったのだが入れなかった。本来の議会機能から考えると創風会としては、本来の議会はチェック機能だけでなく全国的に見ても提案制度を高めることが求められている。議員数を減らすだけでは議会の権能は高められないという意見があった。

例えば18人でも浜田市の現状、やっていけないことはない考えだが、早速減らすのは厳しいだろう。最終的には2人減ないし4人減で会派内でも分かれた。今回のアンケート結果は重たいものがあるので、どちらかに絞るなら4人減の20人である。市民の意思は尊重すべきという声が強かった。

今の24人から何人減らしたらいいかではなく、浜田市議会の機能を果たすには何人居れば大丈夫か、下からの積み上げ論の方が重要だという意見である。

牛尾委員長

少し討議していただきたいのが、3.5%しかなかった市民アンケートを過大評価しすぎではないかという声が議員間にある。皆この結果は気にしておられるが、この評価について絞って議論があれば伺いたいのだがいかがか。今回十分な形でのアンケートには至ってない、でも結果としては出たのだからそれが独り歩きはするのだが、そのことがどうかということ、そこに絞って議論いただきたい。

小川委員

前回発言したものはまとめてもらったが、特に減らせという気持ちが

ある人、議会に批判的な方、距離を置いている方がアンケートに答えやすい。現状の24人、それ以上増やしても良いという声があったことは大きいと思う。数的には18人が多かったが、尊重はしなければいけないが、あくまでもそれは意見であり、縛られず、議会としてはこう考えるということも大事ではないか。

よくやる世論調査とは全く違う結果になっている。参考資料としては十分だし、私自身も反省すべき点はするべきで、やらなければならない部分が指摘されているので、そういう意味ではとても大事だが、定数に限っては、こういう数が多かったからそれに従うという考え方は間違いではないかという感じがする。

アンケートについてはそうだが、前回の意見を会派に持ち帰って話した時に共通して言ったのは、たった2人しかいないが、減らせばすべての問題が解決するかなのような考えは間違いではないか、というのが我が会派の中で議論になった。議員の側も、減らせば市民感情が和らぐのではと考えているとしたら、そこにも問題があるのではないか。むしろ24でどうかと出したのは、20人なら説得できるかといえばそうでもない感じがする。24が適切だということを我々側がどれだけ自信が持てるか、その辺の根拠をはっきりさせることが、説明責任を果たすことになるのではないか。

牛尾委員長

山水海は議員の質を上げるべきというコメントがあった。定数削減と質を上げることはイコールではないので、その辺も議論の余地があるのだろうと思うのだが。

笹田委員

アンケートについては以前も申し上げたが、記述部分は参考にする部分がたくさんある。どこの地方自治体もアンケートを取れば、減らせ、見えないという意見が多いので参考にならないが、数を減らせというのは想定できた。浜田市特有の問題もあるので、アンケートの記述部分はしっかり参考にして、定数についてはそれ以外のところでも考える必要があるのではないかと感じている。

牛尾委員長

境港市議会は先般に定数を1減した。その前は削減維持が先送りでも新しい特別委員会を作ってやったのだが、境港の場合は前回16で無投票だった。それで1人亡くなって現定員が15でやっていて1削減した。境港のアンケートは、多い・やや多いが47.4%、44.1%が適当だということで、最終的に1減した。鳥取は報酬が少し高いので、境港は鳥取の中で言えば一番安いのかな。鳥取が47.5万円、米子が44万円、倉吉が39万円、境港が38.5万円。境港は減らして報酬を増やす流れの中でやった。個々の研鑽能力、議員の資質を上げることが重要だろう。市議会自らが範を示さないと市民の信頼を得られないだろうと結んでいる。その境港でさえ、半分弱が16人で適当だと。境港市民の理解を得ている。地域が狭いので議員との距離が近いということもあるのだろうが。ここは基地もあるし特定第三種漁港を持っているので普通の市とは違う中、1人

減は重い。近隣市がどういう評価で定数を減らしたか、境港が一番事例が出ているので。安来は事前にアンケートを取ってなくて削減したのだよな。

古森局長
牛尾委員長

安来は3人減らして、また3人減らして、6人減らしている。

安来も前回無投票だった。安来、大田が無投票だったのでは。安来は違うか、大田は無投票だった。

西村委員

今の件、せっかく自由討議なので、西村委員はご意見ないか。

私にはどうしてもアンケートの結果から理解が及ばないのは、議員の質の問題。自分が描いている議員像が実際の議員と多分合わないのだろう。そのことが、だから定数を減らせとなっているとしか思えない。なぜそうなるのかが、僕は話し合ってみないと分かり合えない気がしている。市民はお互いに話し合うことでしか理解できないのではという気がしている。尊重すべきなのだが、尊重すべきは定数ではなく、市民が求めている、アンケートをやってほしいとか、もっと自分たちの意見を聞いてほしいという部分での、意見交換の場を、この委員会で場を持つとは言わないが、今後積極的にそういう場を設けていくべきだということは、非常に強く感じた。

牛尾委員長

今の件は複数の方から意見が出ている。削減ありではなく、意見の中に今後我々が取り組まなければいけない問題については、各党派で相当意見が出ているのでやらなければいけないのだが、西村委員が言われた、市民と話し合わなければいけないというのは、例えば8年前の議員席があったわけだから、8年間そういうチャンスがあったわけだから、今回こういう結果が出たからといって、もっと市民と語らねばというのは、自己責任を含めて、そういう表現は責任が曖昧過ぎないか。

西村委員

これも結果論かもしれないが、議会報告会あるいは地域井戸端会という形で試行錯誤しながら、そのことには力を入れてきたつもりだろう議員の側からすれば。しかしそれが結果的にあまり成功しておらず、市民側から見れば、市民が要望するような形の意見交換の場ではなかったという結果に終わった気がする。すれ違いになっていると私は思っている。全く努力をしなかった結果ではなく、したのだが方向がかなりずれていたのかなというようには思っている。それは皆も同じに感じているのでは。

牛尾委員長

かつて1回だったものを2回にして、やってきてはいるが、それは議会の都合であって、市民のニーズに沿ったものではないということが、今回の3.5%の意見を聞く中でも、十分浸透していないというか。きちんとした機会を僕らが作ってない。

西村委員

何か、がっくりきた。

牛尾委員長

ただ議会側とすれば2回もやっているし、やった感はある。こなししてきた印象があるのだが、市民ニーズとは大きく乖離があることが今回分かったわけだから、それをどうするかは皆から意見を出していただい

ているので、それについては今後対応をするかしないかだけだと思う。いずれにしても、定数を考える時に今回のアンケートを気にしておられる会派もあるので、それについては整理してもらって、アンケートはアンケート、自分らの会派の考え方は考え方としないと、委員会として1つのものにすり寄せが難しいのかなと思う。

自由討議の争点になるものを言わないと。

西田委員

議員を減らせ減らせという中に、私もいろいろな方に直接お話を聞いたが、自分たちの今の暮らしがなかなか良くなならない、厳しい。市政に対する不満によって風当たりが議員にも向いている部分もいくらかはある感じがした。そういう部分で、議員はアバウトに、どちらかと言えばできるだけ減らせという気持ちになっておられる市民も多いのではないかという気がした。

牛尾委員長

かつてあったような連合自治会を巻き込んで議員を削減しろというような運動は、個人でされる方はいらっしゃるが、うねりとして組織的に定数を削れという動きはない。

ただ、西田委員が言われるように、議員のレベルもそれぞれ違うし、質問の切り口も皆違う。レベルを上げてほしいと、言われることは分かるのだが。

西田委員

我々もチェック機能を果たすのが1つの役割りなので、そういった面では、市もいろんな政策・施策・事業を、具体的なもの1つずつを市民と議会とがより細かく対話できれば、もっと市民の意見や思いは反映できると思う。そういうものが不足している気がする。

小川委員

市民の意見をもっと聞いてほしいとか、アンケートも含めてだが、そこで言った場合、よろず相談室の形もあるし、1日市民議会という形も考えられる。そういったことをもしやろうと思えば、市民の意見をできるだけ吸い上げられる機会を増やそうと思えば、ある程度人数がいないと。例えば2人1組で毎週やるとしても、かなりの日数になったりするわけで、そういう部分でもいくらかは人数が、聞くためにも必要だというのもある。

また、定数の関係で、20人とか24人とかあるが、今までの話の中でも定数を考える場合に、3つの委員会が必要だと言うのは皆共通していると思うが、それが6人で良いのか、8人でベストなのかも意見が分かれる。先ほど言われた20人というのはどういう根拠なのか分からない。委員会数かけるメンバー数というのは、別の考え方から出ているのか。

普通なら3委員会かける委員人数プラス議長という数字が出るが、20人の根拠が分からない。

西田委員

基本的には議長を除く奇数ということで、どうしてもベースは偶数というのがある。

前回に他会派の方も言われたが、6人だったら、3委員会で18人。それプラス議長で19人だが、19人では奇数になるので1つ増やして20人。

佐々木委員

基本は偶数がベースと考える。

全く同じことをこの表に書いた。委員会6人でいくと、3委員会では18人、それプラス議長で19人だが、偶数が望ましいので20人。委員会に最低6人ずつは担保したい。

牛尾委員長

ただ、私も本会議の議決は、議長を除いて、奇数が望ましいと言われてきたが、考えてみたら、別段、議長は可否同数の時に俺は右だ、左だと言ったところで決は付くものだから偶数でなければいけない根拠はない。ただ、それが望ましいと言われてきたが、大した問題ではない。それは、本会議の議決ですっきりはするが、可否同数で議長判断を求めると、より議長の存在価値が高まってそれはそれで良いという考えも一方にはあるので、そんなにこだわらなければいけない根拠にはならないと思う。自由討議だから言わせてもらうが、そういう意味で言えば、3委員会かける7人で21人、それプラス議長1人で22人、3委員会かける8人で24人というのも、その考えをベースにすると25人になる。8年前にいろいろやったが、妥協策で、議長1人というのは、目をつむって、やはり削減をある程度しないとイケないということから24人を推したのだが、24でさえ、今の話で言えば嘘になる。本来主張するのであれば、私の考えでいくと、25人か22人か19人、16人ということになる。それはそれぞれの根拠があるものだから、私は本会議で議決をするのはすっきりするけど、でも、議長が可否同数で右か左か発言すれば決まるわけだからそのことが理由にはならないと思う。

佐々木委員

可否同数くらいの案件を、議長がその時々で判断で賛成・反対あるだろうが、基本的には賛成すべきではないというのが大方の世論だと思う。それだけ問題のあるものをなぜ議長が賛成したのかということになると、かなり議長の責任を問われることになる。そうすると議長のバックにはその案件に賛成の団体がいたりした場合、それを反対したとなると、それはそれで立場上、非常に難しいことにもなるので、そういう意味合いでも議長は最終的な採決には、なるべくなら参加すべきでない方が適当ではないか、という判断で偶数である。

牛尾委員長

そういう考え方もあるが、議場を総理するのは議長だから、最終的に難しい案件を行う場合、議長の背後が何であろうが、そこで決まらなければ議長の最後の1票で、可否同数の時は議長が決めるのは、そこまでおかしいことではない。どうしてもそこに拘らないとイケないことにもならない。そうすると、望ましいとかいろんな本を読めば書いてあるが、必ずしもそうしないといけないというそれには当たらない。こうやって意見を絡ませないと自由討議にならない。

佐々木委員

それぞれの考え方があるから。

牛尾委員長

他にありませんか。

沖田委員

一番シンプルな形で答えを出そうと思って、皆の主張される人数の平均を取ってみたら、21.85人という数字が出てきた。それは前置きとし

て、そもそも減らす根拠がいまだに自分にも分からないところがある。なぜ減らすのか。際立って財政が困難なわけではないし、強いて言うなら、市役所職員を削減する流れで議員も模範的に減らすという意味が強いのかと思った。

しかし削減ありきではなく、きちんと機能するためというところに注目して、我々会派は22人を出した。なぜ22人が必要かを改めて、ここ数年で訴えていくべきだろうと思う。

自分がふと思ったのが、議員の仕事が見えないという意見が多かった中で、他の団体と比べた時、浜田市議会は結構、特別委員会等も多いのか、少ないのかと思った。例えば自治区の関係の特別委員会も当然浜田独自のものだろうし。その辺の仕事量をはかり忘れていたと先週あたり思った。浜田市議会は仕事をしているのか、していないのか。議員1人あたりの労働時間。今更言っても仕方がないが、議会の仕事内容が見えてこないというのがそもそもの根幹にあるのかなど。西村委員の話と少し被るところもあるが。

定数は、ある程度何らかの方向を示して、示した後の議会の在り方が大きく問われている気がする。

牛尾委員長

正直なご意見で、1期の議員だから良いのでは。悩ましいことを悩ましいと言われるのは貴重なことだから。

そういう意味で西川副委員長から何かご意見があれば。

西川副委員長

私も1期の経験の浅い議員として感じていることを率直に言わせてもらおうと、人数は多いと感じる。

委員会活動等で議論する人数、委員会の開催頻度、所要時間は適当だと思っていて、その辺の負担感は全くないので人数が足りないとは思っていない。視察に行く時の人数は、そこまで行かなくていい気もする。視察前に質問を提出するようにしているが、提出する委員の数はそれほど多くない。

また、前回の時に、どなたかが、アリの2割の例え話を出されたが、全くそういう考え方は議員には相応しくないのではないかと思う。全員が働くべきだと思っている。

少数精鋭はそぐわないという意見があったが、私はそもそも市民の中から志をもって立候補して選挙で選ばれた24人。これも少数精鋭だと。少数精鋭の集団だと思っている。

あと偶数・奇数について議論があるが、それは議会機能には関係ないので、そうなったらそうなったで、機能は積み上げて考えるべきだと考える。

広聴機能が損なわれる、ダウンするというのは人数が減ればもちろんそうだと思うが、そもそも個人の広聴広報としては、個人でホームページを作ったり、SNSを使ったり、広報紙配ったりされている議員もおられると思う。それがどれだけの議員がされているかというのもある。今、

議会として広聴機能の検討もしているので、議会としてレベルアップをしていく。また議員個人の資質の問題もあるので、議員研修等をして資質を上げる。個人の広報広聴については政務活動費の運用方法も検討して、それぞれの議員ができるような、各議員の広報広聴機能を上げて、減らしても機能すると思っている。そういうことから6人かける3委員会プラス議長1人で19人という考えに変わりはない。

牛尾委員長

1期の方の意見はまだ、議員が染みついていない、新鮮で貴重な意見だと思う。自治総合研究所の理事長は極論で、市長は要らない、専門的なシティマネージャーが5、6人いれば市は十分回るからと言っていて、それを僕が本会議で言ったら当時の市長に後で叱られた。自分がいらんないということかと叱られた。

いろんな価値観がある。自由討議で、自分の会派はこうだという域を超えて、もうちょっと意見交換会を続けたいと思うが。

小川委員

結局、委員会で6人が良いか、8人が良いかというところになってくるも気がする。普通の企業でも、新陳代謝がある。先輩がいて、後輩がいてという。私も2期目であるが、やはりバランスを取るためにも一定程度の人数がいないと、良いところは引き継ぎ、悪いところは少しずつ改善しながら、議会も生き物であるから、4年に1回の選挙を通じて体制を維持しながら最終的には市民の福利厚生につながるように努力しなければいけないが、そのためには、ある程度的人数が必要ではないかと思う。確かに、6人でも委員会は、おそらく成立するし、4人でも成立するとも思うが、その中で何が弊害になるかと言えば、市民各層のそれぞれの立場とか、市民の意見がそこに反映されるかというところ。少なくなればなるほど、偏ったというか、そういう意見に流されてしまった結論、そういう形でのチェック機能しか働かない危険性も片方にはあるのではないかと思う。そういうことも含め、会派としてはやはり24人が妥当で、減らすとしても22人が限界だと思う。やはりその辺の機能も大事である。

牛尾委員長

先般の報酬審議会の最後の話の中にも、報酬を上げるなら削減してもらわないと報酬を上げられないということだった。報酬審議会の方では、若い議員もいるし、子育て世代の議員が今の報酬では、とてもその手取りではやっていけない現状もあるので、やはりその辺の報酬アップが、なり手不足の解決に即、つながるとは言わないが、一定レベルの報酬がないと、それを目指すことにはなかなかかなりにくい。報酬審議会は既に削減すれば報酬を上げると総意で言われている。議員の身分保障を上げようと思うと、好むと好まざるとにかかわらず、一定の削減をしないとそういうところにはいかないということも一方ではある。そういうことは必要ないという方もおられるが、やはり、鳥取県の4市を見ても、例えば江津市議会は、額面は安いけど、総支給額は浜田と変わらないということ言えば、県下8市の中でも浜田市は報酬が低い。そうすると、

いろいろある程度、繰り返しになるが削減をしてももう少し上げていただきたいということも、言っていないといけないのかなど、理屈ではなく。

議会基本条例によれば、報酬も定数も自ら決められるのだが、浜田のシステムでは報酬審議会で決まらないとならないので。その辺は十分条件として考えないといけない気がする。ただ、そういういろんな要素を入れながら、最終的に我々が定数を触らないと、というところに行き着くのではないか。それぞれの会派の意見は最もであるが、それぞれ理論武装して、各会派の上げた人数がけしからんと言う場ではない。ただ、次の世代の議員の身分保障を考えると、できるかどうかかわからないが、一定のすり合せの中で見えてくると、いろいろなものが進んでくる気がする。

委員長としてまとめたい気持ちもあるが、まとめにくいものをまとめる必要もない。皆の思いがなるべく定数という形で最終的に出すとすれば、十分ではないがこれなら仕方ない、ここまでなら、ということが可能なら、それも期待しているのだが。あくまでも個人の考えなので。

ただ、前段で言ったように議員の処遇の問題も含めて我々が決めないといけない課題がある。その課題を解決しようと思うと、一定の削減はやむを得ないということ突き付けられている。これは市民アンケートとは別に。このままの条件で良いということになれば、今、言うように島根・鳥取の中で報酬最低限なので、もう少し我々の仕事を見てももう少しあげて、若い人が手を上げやすいように。ただ、報酬が上がったからといって手が挙がりやすくなるわけではないが、でもそれは一定の条件だろうなど。議員だって額面35万円で、手取りが10万円台。もうそれで充分だという人は誰もいない。ただ、市民の中には35万円で良いじゃないかと言う人がいるが、額面35万円でも手取りは10万円台だというと、驚く人が多い。そういう我々の報酬のことを、かつて議会報告会の中でしゃべったことがない。だから、ほとんどの方の前で、報酬は35万円だが、手取りが例えば18万円、19万円だと言った時に、まだ高いと言う人がおられるかもしれない。ただ、我々のそういう内輪の話をざくばらんに市民に提供させていただき、どうですかという議論は今まで1度もしたことない。

僕の友達で大阪の高槻市議会議員で、毎月の報酬を自分の議会だよりに出す、全部、家族構成を含めて。それを見て皆、支持者はよくやっているなどと言われる。だから、そういうのも1つの方法なのかな。

議員が報酬以外にも議員として恩恵があるのではないかというようなことを、間違っておられる市民はいまだにおられるし、いまだに年金のことを言われるが、年金はとうに飛んでしまった。ほとんどの方がいまだに年金があるという誤解を持っておられる。それもやはり、伝わってないなど。

西村委員

我々が今までやってきたけど、伝える努力が足らなかったということもあるが、一生懸命伝えても伝わらないこともあるのだと、最近よく思う。私ばかりしゃべっても自由討議にならないが。

私は考え方としてずっと言っているのは、基本的にどれだけ多くの議員の定数を設定できるかという発想で考えた方が良いという考え方である。

前回、この会議をやった後に2人が残って、牛尾委員長と私と4人で、そのことについて少し話し合った。雑談ではあったが。なぜ、定数を減らしたら当選得票ラインが上がるのかとか。

その話の展開の中で、定数が多いといろんな立場の視点が議会の中に入ってくる。質問でも質疑でも。私はそれが重要なことだと思っている。先ほど西川副委員長が言われた視点もわかるのだが、絞れば絞るほど、いろんな人材、多方面の人材という意味では少なくなってくる。当然ながら。あれもこれも経験した人はそれほどいないのだから。そういう意味で、24人だけど、本当は26人を目指したい。だけど、今の流れでそれを言うのは勇気がいるから24人を主張している。それが基本にある。

少数精鋭の考え方は、私は、それは質の問題だからそれはそれで議論しなければならない。そういう考え方を整理しないと、定数問題にひっかけて定数と質の問題を同時に論じると訳が分からなくなる。多様な意見、多様な立場の方が意見を述べ質疑をするという意味で、できるだけ多い方が良いという考えが基本にあるので、こういう特別委員会で定数問題になると、どうしても下げる話になる。なぜそうなるのかが分からない。

財政が逼迫していると二言目には言うが、そのような状況ではないと思っている。だからそれは市民に説明する必要があるし、恐らく他の自治体と比較しても、議会費を比較してもそれほど遜色ない状況である。人口や面積もこれが正解だと示されたものはどこにもない。だから積み上げなのだ。僕らが共通して目指すのは積み上げ。それで、いくら積み上げるかで少し意見が分かれているが、けどもその中でも現状維持の24人を死守したいというのがベースにあるから24人と言っているだけで、積み上げで22人になるかもしれない。けれど、24人でもいいじゃないか、どこがいけないのかということだ。

牛尾委員長

言われることは十分わかる。今回、正副委員長の報酬が上がった時の報酬審議会を傍聴していた際、会長から意見があればということで、いわゆる浜田市議会の常任委員会、特別委員会、通年会期も含め、拘束日数が増えており、特に正副委員長に負荷がかかるので、委員全体の報酬は別にしても、正副委員長の処遇について考えていただきたいということで、特別委員会でまとめて議長団に申入れし、それが報酬審にかかった。

結果としてあの時に、委員長15,000円、副委員長7,500円、その要望

がそのまま通るとは思わなかった。それはそれでありがたいと思った。一部の人は議会の大変さを理解している。しかし、一方である方が終わった後、副委員長はそんなに仕事があるかなと言われた。例えば若い委員長だった時にベテランが副委員長について、委員長を育てるような役目もある。だから委員会の中で正副委員長というのは重責なのだと。だからそういう人を育てる意味でも、今までは上げてほしいというのは抑えてきた。だから今回そういうお願いをしたのだと言ったら、そういうことなのかと批判的な方が1人おられたが、その方には納得してもらった。

何が言いたいかというと、これから先、議員に手を挙げる若い人に、もう少し身分保障を上げてあげて、これなら議員に手を挙げてみようと思える可能性を膨らませる必要があるのだろう。それは一定の削減がないとできないと一方で報酬審議会から言われているのはかなり重たいと思っている。我々が将来に求めるのは身分保障の改善であり、それを優先すると一定の我慢、各会派で思想、信条があるが、それをどこかでやはり将来のためのすり合せが必要ではないかと、今日の自由討議を含め感じている。

まとめたいのだが、まとめられるものでもない。いろんな条件も含め、今度、若い子が手を挙げて議員を目指すような型を作らないといけない。そのためにも報酬を上げざるを得ない。上げるためには一定の削減もやむを得ないというところで、私どもの会派も24人で良いという意見も半分ある。22人は最低として、ある程度。

その辺で皆さん、提案ですが、将来の若い議員が手を挙げるための条件、身分保障も含め、そういう体も入れながら、それぞれの会派が考えている定数の目標の、若干の歩み寄り、可能性があればご意見を伺いたい。

これは24人を提案されているところに伺いたい。

小川委員

だから身分保障も大切だというのは確かにある。報酬35万円で、手取り10万円台で生活している議員がおられるのも確かだし、それも含めて、それが障害になって若い人が議員になることを考えないのも現実としてある。そうすることを条件にぎりぎりのところで、22人というのはありかなという観点もある。

それもなしに、ただ、全体的に減らすべきという声が強い中で、何もこちらも条件もなく、それだけの声が大きいためそれを受け入れて減らすということではなく、将来を見越した中でそういうことを条件にやむを得ないという選択肢は、持ち帰る価値はあるのではないかと考えている。

牛尾委員長
西村委員

西村委員はいかがか。

希望的なことを言えば、現状を見ると私は多様な立場の議員がほしいという意味で、思うことはいろいろある。若い人が少ないというのもあ

る。

先日、陳情に見えられたひとり親家庭の方の陳情に同席したのだが、話を聞きながら、こういう立場の人が直接議場で意見を述べれば、また違った雰囲気が出てくるのかなと思ったし、第一女性が少ない。それが報酬だけの問題、どう変えればそこが広がっていくのか、私の知識、力だけでは及ばないところがある。それは非常に強く思う。単に24人ということだけでなく、どういう人が入れば活発な議会になるかと言えば、いろんな立場の方が出られるようになれば良いと思う。

牛尾委員長

今、20人を推している会派もある。私が言ったのは、24人は難しい中で、22人というラインであれば歩み寄りができるのではないかという、委員長の個人的な観測であるが、そういう委員長の観測をベースにして、20人を主張されている会派の方はどうか。20人は譲れないお考えなのか。

佐々木委員

今、身分保障のことや正副委員長のことを言われて、少し思い出したのが、僕も1期の時に副委員長をやった経験がある。副委員長は委員長より仕事はなかろうと思っていたが、当時、相当鍛えてもらった。例えば視察の報告書は全部、副委員長が書く。勉強しろという位置づけで当時からずっとあった。今はそういう流れはないが。正副委員長、役割りは多少違うが今も責任は重いので、手当の流れは必要だと思った。

委員長から提案があったが、これは会派で相談しなければならないが、最終的に多数決になった場合には、仮に22人というラインで落ち着いた場合には、我々は委員会の決定を尊重しようということでは話していた。それを頭からいくということは難しく、相談してみないとわからないが、考え方としては、今までもずっと言ってきたが、先ほども議会、議員の多様性の点をいかに担保するか、そのための人数が必要だと私も思う。その視点は議会として重要だと思う。ところが、今の議会の現状を見ると、その多様性が24人の担保ができていないかということ、それぞれの場面でいろんな意見を皆、言われるが、結果としてどういうものがあるかということ、この前も副委員長も示されていた委員会の質問する議員数、これくらいしかなかなか数として出てこないが、それを考えると現状維持は難しい。最低限の委員6名を担保しながら定数を決めていくのが筋かと思っていた。

今後、多様性をこのように広げる、このように担保するという議会の動きが見えれば、市民の声に応えることにもなるので、相談しないと分からないが、22人という視点も真っ向から否定はしない。ただ、現状はそういうことなので、市民説明がつかない、多様性を担保してどういうふうになっているという、こういうふうに行っているという市民説明がつかないということで、20人という提案をさせてもらった。

牛尾委員長

西田委員はいかがか。

西田委員

うちの会派では22人と20人という2つの意見があり、それで議論してどうしても絞れと言われたら20人と今までも報告してきた。

中には、若干1名は、議員報酬を減らしてでも、定数を上げたらという意見もあった。そういう考え方もある。ただ、現実的に浜田の690平方キロの中で、旧市町村5つがあり、その中からいろいろな代表者を選ぶ際、だんだん若い人の、地域のために、他のために汗をかこうとする、議会として頑張るという方々は今、現実、人口減少とともに減ってきて、若い人の意識もそういう方が少なくなってきていて、その中で地域の中で頑張っている若者もおられるが、そういう方に、将来市議会議員をやらないかと言っても、現状、今の生活を考えると今の仕事を辞めてまでやるにはリスクが高すぎる。また、家族の反対でなかなか出られない方が多いと思う。そういう中でなんとか周りから出てほしいという声をかけられて、出る方もおられるし、中には自発的に立つ方もおられるが、それが全体的に減少していく。そういう市の情勢の中で定数を維持していくのも総合的に難しいところがある。

余談であるが、浜田市は690平方キロで広い。東京23区がすっぽり入るといえる話をするが、産業建設委員会で高山市に行ったら、高山市は東京都が入ると言われた。その浜田市の3倍以上の面積を24人の議員でみている。そういう所もあるので、あまり市域のことは言えない。浜田の場合、現実的に各地域から議員になって地域のために頑張ろうという意識がどんどん芽生えていくような空気、議会を作っていくかといけない。定数に関しては20人と22人に分かれているので、帰って報告させていただく。

佐々木委員

先ほど言い忘れたが、今回アンケートはアンケートとして、日頃から僕らも月1回はやっているのだが、市民の方が議会をどう見ておられるかは、なかなかこれは議員がどんどん減る中で分かりにくいし、分からないからこういうアンケート結果になると思う。

今回1期の方がそれまで市民で、議会に入ってきて、どういう議会の見方をされているか、2人の話を聞きながら実は感じていたが、相反している。それだけ市民の見方も、議会の中身が分かったからと言って、なかなか統一的な判断にはならないだろう。ここは我々がしっかりある程度判断していくべきなのかなと感じた。2人の話を聞いて。

牛尾委員長

定数は自ら決めるものではある。アンケートの結果がどうあれ、一喜一憂しないのが原則である。書いても議会はどうせこれを取り入れないのだろうという意見もあった。西川副委員長、いかがか。まとめられる数字を先ほど言ったが。

西川副委員長

私は委員会としてまとめれば良いなとは思っているのだが、私は私で考えがある。私は1人会派なので24分の1の意見として残していただきたいと思う。

それと、多様性が失われるのは確かだが、24人が20人になったとしても、市民の多様性を反映するので、縛られるが偏るわけではない。市民の多様性が選挙によって反映されるわけだから、そんなに心配してい

ない。それと委員会の数が8人から7人になってもあまり減った感じはしないので、6人。8分の1の責任を感じて仕事をするのと、6分の1の責任を感じて仕事をするのでは思いが違おうと思うので、そのくらいの6分の1くらいのそれぞれが重みをもって仕事をすればいいと思う。

牛尾委員長

今日、こうして自由討議をして、だいたい以前より形式的議論ではなく、相当中身に突っ込んだ意見もいただいた。西川副委員長の意見も含め、少数会派の意見も大事にするべき。

前回も言ったが、日程的に削減するとなると、9月に条例提案しなければならない。1日に条例提案しようと思うと、ここはまとまっていて、なおかつ、17日の全員協議会に報告しなければならない。だからもし、例えば22人の考え方で提案するとしても、一度持ち帰ってもらわなければならない。だから流れとしては、もう1回持って帰ってもらい、それを持って出てまた話をしなければならない。17日の全員協議会で報告するというのは、来週もう1回委員会をやれば可能だが。スケジュールの問題だが。

削減するという条例提案するとしたら、1日出すのか、9月30日出すのかで日程が窮屈になる。9月定例会議でやるなら初日の全員協議会で説明すれば済むのだが。今日、大方の流れをまとめるまでにはいかずとも、一定のまとめのラインが出たら一旦持ち帰ってもらわないといけないので、持ち帰ってもらって、もう1回やりたい。

日にちは11日、12日、13日しかない。17日に報告しようとする。それか、もう少し時間をかけて、8月17日の全員協議会ではなく、9月1日の全員協議会で良いではないかとなるなら。あまりバタバタしても良くないので、皆さんが11日、12日、13日のどこかでOKとなれば、それはそれで持ち帰ってもらって、この答えをもう1回持って帰ってもらおう。そこでその場で集約できればする。できなければ多数決でやったほうが良いのかどうかまで含めて。

下間次長

特別委員会として条例を出すのか出さないかを含めて。また、出すのであれば何人というのを出して。それは最後まで話し合いでやるのか、多数決で決めるのか。

牛尾委員長

そういうことなので、とりあえず私は自由討議の中で22人にすり合わせできないかと言ったが。

下間次長

それは特別委員会として22人で条例案を出すことでどうだろうかというのを持ち帰ってもらおうということか。

牛尾委員長

そうだ。どうであるか。

笹田委員

僕らは最初から22人と言っているのです。

牛尾委員長

皆の意見を聞きながら、22人ならすり合わせできそうだなという不見識な予測の中で調整案を委員長として出させてもらったのだが。西川副委員長はご自分の考えがありわかったのだが。大方の方はどうもすり合わせができそうな可能性のある発言をされたので、一旦22人の条例提案

を出す方向で持ち帰ってもらい、それでよしということであれば再度上げてもらおう。

佐々木委員

条例提案に向けてとのことだが、条例提案は数を提案することだが、あわせて、条例の中には当然入らないが、この委員会で議論してきた中身、今後議会として、意見もあり、こういうふうにする中で、こういう提案をするということとその提案の中でしっかり入れ込んでもらった方が、当然マスコミに良い説明になるだろうし、市民の理解も得やすい。その辺もしっかり、数だけでなく文言についても提案できれば検討してきたほうが良い。

牛尾委員長

今回は各会派とも相当、突っ込んだことを言っているのだから、それを網羅するような形の委員長報告を作らなければならないと思う。そうでなければ、勝手に委員長報告を作ることにはできないし、網羅した中で、西川副委員長の少数意見も含めながら、最終的にはこうであるということ提案しようと思う。今回の件については、地元新聞社2社も注視しているので、これまで皆が議論してきたことをきちんと的確にとらえて、誰からも指を差されないように委員長報告を作るつもりである。今言われたように。

笹田委員

質の話があったが、質の判断は非常に難しい。個人の判断ではなく市民が判断することである。今回のアンケートでは議員の資質については市民に理解されていないことが判明されたので、今回、22人でいくとしても、何かしら質向上のプロセスもあえて考えていかないと理解が得られないと思う。議会が決めたのであれば質向上の何かしらをすべき、講じるべきだと思っているのだが。

牛尾委員長

今のは、貴重な意見で、指摘は僕らが一番参考にしなければならない。語り合う回数を増やすとか。会派主義を取っているのだから、会派の勉強会、議会全体としての勉強会、年2回、3回、最低、春夏秋冬やるとか。そういう仕組みを作っていないと、浜田市議会が今のままでは立ち行かないのははっきりわかっているのだから、一步も二歩も踏み込んだものを、将来こうあるべきであるというようなことを委員長報告に書き込めるかはわからないが、それを含めて、それをやっていないと、今回、随分宿題をもらっているのだから、現実的にそれをきちんと生かさないと次の議員定数の議論の時にまた同じような堂々巡りになってしまうのだから、わずか3.5%ではあるが、相当注視しなければならないご意見をたくさんいただいているのだから、それを少しでも実現する姿を描かないといけないのではないかと思う。

今、おっしゃったようなことは、委員長報告の中に書けると思うが、頑張ってみる。今後はこうあるべきであるといったことも入れながらやっていきたいと思っている。

そうすると22人について、委員長として提案させてもらったのだから、会派にいったん持ち帰ってもらって。22人なら、全会一致ではないが、大方の方の意見が合致しそうなから、22人で良いかどうかを次回の会議で

検討したい。よろしく願います。

そうすると、大事な問題なので、今日5日だが、来週、盆前だがやるか。次長どうか。それとも9月中の議会で提案なら、それほど急がなくていいか。

下間次長

前回24年の時は全員協議会で、議員全員にそれまでの特別委員会の経過報告をして、さらにまた委員会を開いて1本化した経緯がある。

今回はその都度会派に持ち帰って意見をもらっているので、全員協議会でやる必要があるのかということもある。

笹田委員

必要ない。

牛尾委員長

会派でまとまれば改めて全員協議会で報告しなくて済む。

佐々木委員

そのほうがいい。

牛尾委員長

会派内で十分ご議論いただいていると思う。会派機能が十分なら全員協議会でやる必要はない。

古森局長

前は22人と24人と2案が固まってない中で、全員協議会で報告した上で委員会を開いて最終決定した。委員会提案の議案と、議員提案の議案と2案あって、記名投票で採決した。今回は会派で調整するというなら全員協議会は不要かと。

下間次長

全員協議会なくしての、例えば22人で、特別委員会で提案することができたら、可能であれば全員協議会を開かず、その前の議運で特別委員会として提案すると報告させてもらって、初日提案も可能かもしれない。

初日提案の際には、この特別委員会として委員長報告をして、特別委員会としての委員会提案で提案説明する流れになる。

牛尾委員長

委員長報告をしてから、最後に提案する。

下間次長

最後というか、委員長報告をして、引き続き提案という流れになる。

牛尾委員長

今の流れで良いか。持ち帰りの日にちをいつにするか。

(以下、日程調整)

21日の13時30分で良いか。

(「はい」という声あり)

下間次長

今、特別委員会で、例えば持ち帰ってもらって22人で出そうと決まった時に、議員提案で他の案が出てくる可能性もあるのか。

牛尾委員長

ある。可能性はあるが、出るかどうかは分からない。前回みたいに議論が競ってないから。

下間次長

はい。

牛尾委員長

西村委員が24人でないと困るとされるなら別だが。

下間次長

ただ24人の場合は提案ができない。

笹田委員

反対討論は出る。

下間次長

討論は当然出ることはあり得る。

牛尾委員長

特別委員会でまとめさせていただいても、反対討論をするのは自由だから。

- 下間次長
古森局長
下間次長
古森局長
牛尾委員長
下間次長
牛尾委員長
西田議員
牛尾委員長
下間次長
牛尾委員長
- はい。
討論はどちらの討論もあって良いかもしれないが、議案が出るどうか。
こうして会派で持ち帰って、割とまとめて持ってきてくださっている
ので、割れてなくて委員会の中で決めたのだからそれに従うということ。
出るとしたら24人はあり得ないので、20とか19とか。
そうすると、あと議論するのは。とりあえずほとんど終わったか。
はい。あと気になっていたのが、各議員の定数についての考えという
のは、公開するよにという提案が前回か出ていたのだが、そういった
ところはいかがするか。皆そういう考えをお持ちなら、1人1人に考え
を出してもらって、例えばホームページに載せるとか、そういうことも
していかないといけないのだが。
ただ、会派で考えて出てきておられるので、各個人の考えがいるのか
どうか。
会派としてまとめをされて出てくると予測しているので、個別の意見
を公開するのは、皆はどうか。
そういう声があったので報告させていただいたのだが、それは、どう
してもということではない。
特別委員会としてまとめたので、個人の意見というよりも、会派でま
とまったという見解なので、個人の意見は披瀝しないということ。
以上で自由討議を終了する。
では、次回まで持って帰ってもらうことで良いか。
持って帰ってもらって、初日ではなく議案質疑の日か、最終日か、と
いうことも。
それを含めて会派に持ち帰ってもらう。

議題2 その他

- 牛尾委員長
その他に委員からあるか。
(「なし」という声あり)
では今日はこの辺で閉じたいと思う。

(閉議 11時56分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により委員会記録を作成する。

議員定数等議会改革推進特別委員会 委員長 牛尾 昭

Ⓔ